飯田市歴史研究所ホームページ：https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/

飯田市 歴研ニュース

News Letter No.104 The Iida City Institute of Historical Research

2020年2月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0803
長野県飯田市鼎下山538
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iihr@city.iida.nagano.jp

建築史ゼミの活動紹介

昨年７月から毎月第三金曜日に建築史ゼミを開催しています。普段のゼミでは、建築史に関する文献や図書を読み、地域の建築文化についてディスカッションをとおして学んでいます。今年度に素材としたのは、大河直躬（おおかわ なおみ）『住まいの人類学―日本庶民住居再考』（平凡社　1986年）です。本書が取り上げる題材は、《玄関》《台所流し》《仏壇》《大きな部屋》など、日本の住居では当たり前となったものですが、これらを現代から過去にさかのぼって考察した稀有な論考集といえます。内容は、日本の民家史研究の蓄積もおさえられた本格的なもので、南信州の民家を考えるうえでも様々な示唆が得られたように思います。

建築をよりよく理解するには、机上の議論だけではなく、実物をじっくり観察することが大切です。当ゼミでもなるべく早くに見学会を企画する予定でしたが、第一回目の見学会は昨年暮れにようやく実現しました。今回は大鹿村の山里の建築とまちなみをテーマとし、大河原の旅舎右馬允（うまのじょう）と上蔵（わぞ）の集落を見学しました。

「旅舎右馬允2階廊下」（図1）

右馬允を営む前島家は、古島敏雄氏がかつて研究した大鹿村前島家文書で知られる大河原の名家で、現在の建物は大正時代に大鹿村村長をつとめた前島隆俊氏が設計したものと伝えられています。江戸時代までの日本の住宅は平屋建てが基本で、二階はあっても屋根裏の粗末な部屋というつくりが一般的でした。しかし、大正時代に建てられたこの住宅では、二階に立派な客座敷が設けられ、またそれらの部屋の横には、透明なガラスで覆われた光に溢れた明るい廊下がつくられています（図1）。これらの特徴は全体として近代的な印象を与えるものです。近世までの民家造りから近代住宅が生まれてくる過程を具体的な地域に即して考えることは、建築史の重要な課題であると感じました。

「上蔵 福徳寺 （手前）」（図2）

また、上蔵は県下でも有数の中世建築・福徳寺本堂（図2）が建てられた集落です。見学にあたっては、右馬允の前島久美氏を筆頭に、現地にお住まいの方々から集落の歴史や風景の魅力を道端で語っていただきました（図3）。年末の寒い中での開催でしたが、ゼミ生以外の方も含め、飯田市内外の総勢15名が参加されました。充実した地域間の文化的交流となったように思います。

「上蔵での見学の様子」　（図3）

（研究員　福村任生）

髙木恵一氏撮影写真の紹介

三六災害前後の飯田で撮影されたカラー写真の複製デジタルデータが寄贈されました。撮影者は当時飯田在住であった髙木恵一さんで、ご遺族の方がカラースライドをデジタル化し、そのデータを歴史研究所にご提供いただいたという経緯です。

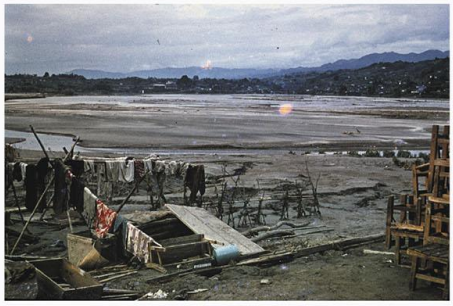
なお1960年代の写真は、モノクロフィルムによるものが一般的で、カラーネガフィルムの本格的な普及は1970年代以降となります。三六災害を記録した写真はそのためほとんどが白黒であり、カラーによる記録写真は希少価値の高いものといえます。また、カラースライドとは、リバーサルフィルムと呼ばれるスライド映写用のポジフィルムを使用したものです。リバーサルフィルムは色の再現性がネガフィルムよりも優れている反面、現像時の調整が効かないため、あつかいの難しいフィルムとして知られます。

寄贈いただいた写真データは全部で122点あり、内容は昭和35～38年の飯田市内および近辺のものに限られます。三六災害関係では、丸山地区、野底川下流、川路の各地区の写真が計20点あり、被害状況の記録写真として大変貴重なものです（②③④）。また、それ以外の写真も、災害から復興を遂げ、高度経済成長の途上にあった飯田のまちや農村部の景観の変化を色鮮やかにとらえたものといえます（⑤⑥）。60年前のカラー写真の一枚一枚を丹念にみていくと様々な発見があり、今後の歴史研究にも積極的に活用されるべき素材と考えます。

（研究員　福村任生）

①「S35.11.12 信毎駅伝・スタート」

②「S36.6 球場南 水害」



③「S36.7 川路 桑園 天竜川」

④「S36.7 川路 水害」

⑤「S37.4.1 飯田お練祭 小伝馬町屋台」

⑥「S37.5.17 新送信所アース埋設」

新刊案内

『飯田下伊那の少年たちの満州日記』

飯田市歴史研究所　編集・発行
B5判　118頁　　定価　300円

この冊子は、飯田下伊那の2人の青少年、松島格次（当時15歳、高森町市田出身）と江塚栄司（当時19歳、飯田市松尾出身）の日記を翻刻したものです。

松島格次は満蒙開拓青少年義勇軍として義勇軍内原訓練所へ入所した日から約10か月にわたって満州の一面坡（イイメンパ）訓練所での生活等、日々の出来事や思いを綴っています。義勇軍としての誇りと自覚を持った少年の眼から見た記録です。

江塚栄司の日記は松尾青年学校在学中に満州の長野県報国農場へ夏季40日間勤労奉仕隊として行った時のもので、満州農業についての講義録と日々の出来事を綴った日記部分とからなり、満州農業の実態を知る上での史料としても貴重な記録です。

購入を希望される方はお早めに歴史研究所へお申し込みください。

特集 歴研と私

歴史研究所での仕事と学び

向山 敦子

飯田下伊那地域は、特に歴史研究者にとってとても魅力的な地域だといわれます。それは古い資料が多く残っているところだというのです。昔から古いものを大事にする風土があったのでしょう。その大事に大事に保存されてきた貴重な資料を、旧役場の倉庫、個人の蔵などから運び出し、目録を取り所在を明らかにしておくのが、歴史研究所の一つの仕事です。その作業のお手伝いをさせていただきました。

倉庫や蔵の中は暗く湿っぽく、ホコリが積り、貴重な史料もすっかり紙魚（シミ）などに穴をあけられ、カビに固まり、ネズミの住みかとなり、糞といっしょくた等と、とても残念な状態になっているものもありました。それらを丁寧に運び出し、ホコリを払い、カビの固まりはアルコールを吹き付けて一枚一枚丁寧にはがしと、作業を進めていきました。

それら古文書をひたすら解読し目録を取っていく作業をするベテランの方の傍らで、その仕事ぶりをつぶさに見せていただき、得難い体験もさせていただきました。

さらに大事な資料を撮影してマイクロフィルムに保存しておくために、真っ暗な撮影室にこもりカメラをセットして1ページ1ページとめくりながら、ひたすらシャッターを押す、孤独な作業も経験いたしました。

学問や研究とはまったく縁がなく、歴史にもうとい私ですが、満洲移民については関心がありました。幸い研究所には満洲移民を深く研究する研究者がいましたので、仕事とは別に知識を深めることができました。また未熟ながら共同研究者に加えていただき、調査に参加させていただいたのは身に余る光栄でした。

研究所を利用する立場になってみますと、身近なところでしかもお金もかからず学ぶことができる、こんないい施設はないと思います。市民参加のアカデミア、ゼミナール、地域史講座など学ぶ機会がたくさん用意されています。興味のあるものには進んで参加するように努めてきました。少しでも今までの不勉強、知識のなさをカバーしようとの思いからです。

これからも市民に開かれた研究所として情報発信を期待したいと思います。

（むかいやま あつこ 満洲移民研究ゼミ／近現代史ゼミ）

研究活動助成報告会を開催します

開催日：**3月15日（日）**
時　間：**11：00～12：00**
会　場：**歴史研究所 研修室**

報　告

「幕末から明治期における薪炭生産と入会地の管理」

伊藤 悠（いとう はるか）さん（東京大学大学院生）

歴史研究所では、個人や団体の歴史研究活動に対して助成を行なっており、今年度この助成を受けられた方の成果報告会を開催します。聴講無料でどなたでもご参加いただけます。

座光寺ワークショップを開催します!!

近世座光寺村の村社会を考える
―阿波の山里社会との比較から―

開催日：**3月22日（日）**
時　間：**14：00～16：20**
報告者：**羽田 真也**（歴史研究所研究員）
町田 哲（まちだ てつ）さん（鳴門教育大学准教授）
会　場：**座光寺公民館**

今回のワークショップでは、2019年4月の地域史講座での成果を踏まえつつ、家・同族関係・組という存在に着目して、江戸時代における座光寺村の村社会のあり方を検討します。また、阿波の山里社会を研究する町田哲氏をお招きし、それとの比較から座光寺村や下伊那の村社会の特質、および今後の研究課題などについて考えます。

飯田アカデミア2019第90講座
歴史をめぐる新たな事実と新たな視点
－ジャーナリストの視点で歴史を見直す－

新聞記者として、歴史にまつわるニュースを取材する中で出会った新たな研究・資料を紹介します。

国立科学博物館の人類学者たちが、台湾から沖縄の先島諸島へ手作りの舟で海を渡る実験を行いました。日本列島における人類の歴史を書き換えようとする実験です。何が新しくなったか、当たり前と思っていた歴史像とは何だったのか。縄文時代を題材に考えます。

取材の中で新たな資料に出会い、解読にも取り組みました。そこには隠された事実が眠っていました。今回は日独伊三国軍事同盟と、朝鮮の三・一独立運動を紹介します。有名な出来事ですが、今まで知っていると思っていた歴史とは何だったのかを問うものとなりました。歴史がいかに語られ伝えられるのかを考える手がかりになるはずです。

2月8日(土)

第1講 13：30～15：00
日本人の歴史観はどう変化したのか

第2講 15：20～16：50
私たちは何を知っているのか

講師　**渡辺（わたなべ） 延志（のぶゆき）さん（ジャーナリスト・元朝日新聞記者）**

会場　**飯田市役所 C棟3階会議室**（飯田市大久保町2534）

資料代　**500円※高校生以下無料**

※１講義のみでもご参加いただけます。どなたでもお気軽にお越しください。

地域史講座

近代座光寺村の蚕種業
一座光寺村・伊那蚕業合名会社の経営を中心に一

開催日：**2月29日(土)**
時　間：**14：00～16：00**
報告者：**田中雅孝**（歴史研究所調査研究員）
会　場：**座光寺公民館**

下伊那の蚕糸業は、優良な繭を確保することによって発展しました。優良繭を生産するには、高品質の蚕種が供給されることが重要でした。その発展条件を蚕種業者の経営史料から探ります。

遠山谷の歴史的景観
消えゆく景観と引き継がれる景観

開催日：**3月14日(土)**
時　間：**14：00～15：45**
報告者：**樋口貴彦**
（東洋大学助教・歴史研究所調査研究員）
オブザーバー：**佐々木葉（ささき ようさん**（早稲田大学教授）
会　場：**南信濃地域交流センター（南信濃公民館）**

遠山谷の人々の暮らしは、険しい斜面や谷筋の街道と共にあり、その中で独自の景観が形成されてきました。本講座では近年の調査をふまえて、変遷する景観について考えます。

歴研ゼミ＆ワークショップ 2月・3月の予定

スタッフとともに歴史を学んでみませんか。

受講生募集!!　会場:歴史研究所 研修室

満洲移民研究ゼミ　担当：本島和人（調査研究員）齊藤俊江（調査研究員）
第102回 2月1日／第103回 3月7日
（第1土曜日）10：00～11：40

近現代史ゼミ　担当：田中雅孝（調査研究員）
2月22日（土）／3月28日（土）
10：00～11：40

地域史ゼミ　担当：太田仙一（研究員）
2月14日（金）・28日（金）／3月13日（金）
18：30～20：30

近世史ゼミ　担当：羽田真也（研究員）
2月26日 ／3月25日
（第4水曜日）18：30～20：30

建築史ゼミ　担当：福村任生（研究員）
2月21日（金）／ 3月27日（金）
18：30～20：30

思想史ワークショップ　市民の皆さんが自主的に学び合う場
2月5日・19日／3月4日・18日
（第1・第3水曜日）19：00～20：40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、歴史研究所までお問い合わせください。　TEL：0265 - 53 - 4670

定例研究会

開催日：**2月15日(土)**　報告者：**原 英章**（歴史研究所調査研究員）

松島格次（まつしま かくじ）「義勇軍日記」と市田教育
―「義勇軍日記」の背景を考える―

会　場：**歴史研究所 研修室**
時　間：**14：00～16：00**

開所時間：午前9時～午後5時　休所日：日曜日・月曜日・祝日・12月29日～1月3日